学校番号	2003

平成31年度　家庭科

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	家庭基礎　　（東京書籍）						
副教材等	生活学Ｎａｖｉ（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・人の一生を生涯発達の視点で捉え、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活についての現状を認識させ問題点を探らせる。実習・実験により食生活、衣生活に必要な基礎的な知識を技術と理論に基づいて習得させる。現代の消費生活の課題について認識させ、消費者として責任を持って行動できるようにする。
・プリント学習やグループ討論などを通じて、「聞く→考える→伝える」力を養う。

2　学習の到達目標

・人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
・「コミュニケーション力」を高める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 プリント等の記述	学習状況の観察 プリント等の記述	学習状況の観察 プリント等の記述 実習参加態度の観察 実習作品・記録表 実技テストの結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 プリント等の記述 定期考査の結果等
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	自分らしい人生を作る	○家庭科の学び方 ・ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動 ○生涯発達の視点 ・青年期の課題 ○目標をもって生きる ・人生を作る	○ ○	○ ○	○	○ ○ ○	a:青年期の生き方について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:青年期にある自分を見つめ、課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:事例研究などを通して、青年期の生き方について検討する技術を身に付けている。 d:青年期の課題について理解し、人の一生を自分の問題として捉えるための知識を身に付けている。	・学習状況の観察 ・プリント等の記述 ・定期考査
	衣生活を作る	○被服の役割を考える ・何をどう着るか ・自分に似合う色とは? ○被服を管理する ・被服を入手する ・界面活性剤のはたらき ○これからの衣生活 ＊被服実習	○ ○	○ ○ ○	○	○ ○ ○	a:被服管理と着装、健康で快適な衣生活、ライフスタイルと環境に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:被服管理と着装、健康で快適な衣生活などについて、課題を見いだし、その解決をめざして考え、適切に判断し表現している。 c:生涯を通して健康で快適な衣生活を営むために必要な被服計画、被服整理などの技術を身に付けている。 d:被服の機能と着装、被服材料、被服の構成、被服管理などについて科学的に理解し、健康で快適な衣生活を主体的に営むために必要な知識を身に付けている。	・学習状況の観察 ・プリント等の記述 ・宿題提出 ・実習作品 ・実技テスト ・定期考査
	子供と共に育つ	○育つ子供の育つ力を知る ○親としてともに育つ ・子供とのふれあいから学ぶ ○これからの保育環境	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○	a:子どもの発達と保育について関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:子どもの発達と保育について、家族や地域の生活を見つめて課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:子どもと適切に関わることができたり子どもの健やかな発達を支える技術を身に付けている。 d:子どもの発達と保育について理解し、家族・地域・社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身に付けている。	・学習状況の観察 ・プリント等の記述 ・定期考査

	高齢社会を生きる	○高齢期を理解する ○高齢者の心身の特徴 ○これからの高齢社会 ○高齢者を支える社会のしくみ	 ○ ○	 ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○	a:高齢者の生活について関心を持ち、実践的・体験的な活動を通して意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:高齢者の生活について、家族や地域の生活を見つめて課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:高齢者と適切に関わることができたり高齢者の自立生活を支える技術を身に付けている。 d:高齢者の生活について理解し、家族・地域・社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身に付けている。	・学習状況の観察 ・プリント等の記述 ・定期考査
	共に生き、共に支える	○私たちの生活と福祉 ・共に生きる ○社会保障の考え方	○ ○	 ○	 ○	○ ○	a:共生社会と福祉について家庭や社会の一員として関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:共生社会を成立させるための課題を見いだし、その解決をめざし社会の一員として何ができるか考え、工夫している。 c:地域で行われているコミュニティ活動やNPO活動などについて、情報を収集・整理したり、参加したりする技術を身に付けている。 d:共生社会と福祉について理解し、生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的な支援が果たす役割を認識するための知識を身に付けている。	・学習状況の観察 ・プリント等の記述 ・定期考査
後期	食生活をつくる	○食生活の課題について考える ○食事と栄養・食品 ・何をどれだけ食べたらいいのか? ○食生活の安全と衛生 ・生涯の健康を見通した食事計画 ○これからの食生活 ○調理の基礎 ＊調理実習４回（10月～２月）	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○	 ○ ○ ○ ○ ○	a:食事と健康、安全と環境に配慮した食生活、ライフスタイルと環境に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:食事と健康、安全と環境に配慮した食生活について、課題を見いだし、その解決をめざして考え、適切に判断し表現している。 c:生涯を通して健康で安全かつ環境に配慮した食生活を営むために必要な栄養、食品、調理、食品衛生等の技術を日常食の調理実習を通して身に付けている。 d:栄養、食品、調理、食品衛生、ライフスタイルと環境などについて実験・実習を中心とした学習を通して科学的に理解し、健康で安全な食生活を主体的に営むために必要な知識を身に付けている。	・学習状況の観察 ・プリント等の記述 ・宿題提出 ・調理実習 ・実技テスト ・定期考査

	住生活を作る	○住生活について考える ○住生活の計画と選択 ○これからの住生活	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:住居と住環境、安全で環境に配慮した住生活に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:住居と家族の生活、安全で環境に配慮した住生活について課題を見いだし、その解決をめざして考え、適切に判断し表現している。 c:安全で快適、かつ健康な住生活を営むために、住居の計画や選択に必要な情報を収集・整理する技術を身に付けている。 d:住居の機能、住環境などについて科学的に理解し、安全で快適、かつ健康な住生活を主体的に営むために必要な知識を身に付けている。	・学習状況の観察 ・プリント等の記述 ・定期考査
	経済生活を営む	○職業生活を設計する ○計画的に使う ・国民経済・国際経済と家庭の経済生活 ○消費者の権利と責任 ○これからの消費生活と環境 ・持続可能な社会をめざしたライフスタイル ○生涯を見通す ・自分のめざすライフスタイルとは？ ・生涯を見通した生活設計	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:消費生活と生涯を見通した経済の計画・管理、生活設計について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:消費生活と生涯を見通した経済の計画・管理、生活設計について、考え、工夫している。 c:消費生活と生涯を見通した経済の計画・管理、生活設計を立案するための技術を身に付けている。 d:現在及び将来の消費生活と経済の計画・管理、生活設計のために必要な知識を身に付けている。	・学習状況の観察 ・プリント等の記述 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。